

リンダ・オウラヴスドットティル (原) 朱位昌併 (訳)

本当にやる!

できる!

必ずやる!

アイスランドの
「女性の休日」



1975年10月24日、アイスランドの女性たちが一斉に「休んだ」この日、社会は初めて女性たちの存在の大きさを実感しました。現在公開中の映画『女性の休日』の題材となったこの出来事を、絵本『本当にやる！できる！必ずやる！』は柔らかな絵と文章で私たちをエンパワメントしてくれます。

今回は、本作を出版された「ゆぎ書房」の前田君江さん（東京）をお迎えし、翻訳絵本出版社という働き方と、「絵本だからこそ伝えられること」についてお話を伺います。

トーク後は、絵本を使ったワークショップも行います。映画『女性の休日』（フォーラム山形にて11月21日～上映予定）をご覧になった方も、まだの方も、ぜひご参加ください。

翻訳絵本という仕事

『女性の休日』が絵本となって届くまで！

12.20 (土) 14:00 - 16:00

滝山コミュニティセンター 2階スペース和室
(山形市上桜田1丁目17-26)

参加無料／定員 20人

一般の方はもちろん、親子での参加、
学生さんの参加もお待ちしております

申し込みはQRからお願いします



講師 ゆぎ書房 代表 前田君江
イラン・ペルシア文学研究に携わっていたが、「解説」では伝わらないことが絵本で伝わる面白さに目覚め、すべてを放り出して絵本を探す旅に出る。

絵本翻訳者として、『ラマダンのお月さま』（解放出版社）、『イードのおくりもの』（光村教育図書）、『石たちの声がきこえる』（新日本出版社）。

2020年に、ゆぎ書房を創業。「本当にやる！できる！必ずやる！アイスランドの『女性の休日』」ほか、アイスランドの絵本を多く刊行。

2007年より東京大学教養学部非常勤講師、2023年より「認定絵本土」養成講座講師（常磐短期大学）ほか。



主催・問合せ／特定非営利活動法人 Sisterhood（山形市緑町4-10-3 フェートンビル3階B）



※当企画は、休眠預金を活用した民間公益活動として、当該助成金を活用して制作されました。

事業名：若年困窮女性の孤立防止と経済的自立支援

指定活用団体：一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA） 資金分配団体：公益財団法人 地域創造基金さなぶり

HP



絵本『本当にやる！できる！必ずやる！』



リンダ・オウラヴスドットイル 作、朱位昌併 訳
2025年10月24日出版、ゆぎ書房

小学生くらいの女の子ヴェーラは、ママと一緒に今年の「女性の休日」（女性ストライキ）に出かけます。そのとき、ママは1975年10月24日の「女性の休日」にお母さんに連れられて参加した日のことを話してくれます。

なぜ女性たちがストライキを起こすことになったのか。かつては学校に行けるのは男の子だけだった。家族の世話を担うのは女性たちで給料は男の人たちの半分だった、と。

1975年に国連が「国際女性年」を宣言し、アイスランドの女性たちは行動を起こします。——想像してみてください。社会の半分の人がすべての仕事とやぐわりを一日休んだらどうなるか。

立場を超えた女性たちがこの歴史的なストライキ「女性の休日」に参加しました。なんと、「アイスランド女性の90%が家庭と職場での仕事を放棄した」のです。この誇り高い一日を力強く、軽やかに描き出した絵本です。

ゆぎ書房／2005～2019年にかけて、イラン、トルコ、アラブ首長国連邦、ジョージア（グルジア）の児童書店をめぐりました。星の数ほどの絵本のなかで、日本語版としてお届けできる絵本は、ほんの一握り。そんな希少な絵本の数々を、当日は手に取ってゆっくりご覧ください。

ガゼの子どもたちを描いた絵本や、アイスランドの13人のサンタクロースを紹介した絵本など、世界の子どもたちや文化の違いを知ることができる絵本を、贈り物としてもお買い求めいただけます。

当日は、絵本を手にとりお買い求めいただけます



山形市にて、ジェンダー平等と誰もが〈自分らしく〉生きられる地域社会にしていこうことをミッションに活動している団体です。若年女性の居場所づくり事業や、ジェンダーもやもや女子会など、“おしゃべり”を通してエンパワメントしあう場を大事に活動してきました。

今回の企画は、代表の小笠原がかつて学校司書をしていたことから持ち上がりました。映画で見る『女性の休日』とはまた違った印象を受ける絵本『本当にやる！できる！必ずやる！』。その違いや、絵に込められた想いをみんなで一緒に発見する時間にしたいと思います。